

建設水道委員会会議録

1. 開催年月日

平成30年10月19日 開会 12時55分 閉会 13時36分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

荒木謙二 坊野公治 大滝文則 上野安是
細羽敏彦 多賀信祥

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 事務局職員

事務局長 川田純士 事務局次長 藤原靖和
主査 柳本兼志

6. 傍聴者

(1) 一般 0名
(2) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長（荒木謙二君） それでは、皆さんこんにちは。

決算委員会に引き続き、ただいまから建設水道委員会を開会いたします。

〈所管事務調査〉

委員長（荒木謙二君） 前回、16日の委員会で大滝委員にお願いしとりました提言書の導入部分の素案をお手元のほうに配付をさせていただいておるところでございます。

多賀委員にも改めて作成いただいた提言内容及び提言理由の案、また新規就農者が住宅確保に苦勞していることを裏づけるためのアンケート実施について協議をいたしました。

今回、改めて大滝委員がその導入部分について、提言内容等に沿った修正案の作成及び農業後継者不足等を調査するアンケートの作成をしていただいております。

まず、大滝委員より提言書導入部分の修正案の説明をお願いいたします。

委員（大滝文則君） 先般、お話ししたとおりでございますけども、人口減少問題とあわ

せて移住・定住施策の関連性をもう少し具体化したほうがいいのかということで、人口問題を一部取り入れて、多賀委員がつくられております新規就農者の移住・定住施策と整合性がとれるように、できるだけ近づけたような文章にしております。ちょっとまだ句読点等々の一部修正は必要だと思いますけども、おおむねこの内容でいかなものかと作成してまいりました。

委員長（荒木謙二君） 今、お手元のほうに配付をさせていただいております導入部分「はじめに」なのですが、冒頭に人口がこういった形で減少するという予測を書かれておりまして、それから井原市の人口もこういった傾向であるというふうなことで、中山間部の減少が顕著であるというふうな文言が新しく入っております。

それから、「次に」からは16日に出ておった導入部分とほぼ同等なことが書いてありまして、井原市議会建設水道委員会というふうなことで、大滝委員、上の人口減少問題があるという上2つ、7行が新しく加筆されたというふうな。

委員（大滝文則君） それと、多賀委員がつくられとる内容にあわせて括弧内を変更しております。

委員長（荒木謙二君） それでは、今説明をいただきました導入部分について何かご質問がありますでしょうか。ちょっとご一読はなかなかできなかったかとは思いますが。

委員（多賀信祥君） 質疑はございません。この内容でいいかと思えます。

委員（細羽敏彦君） これでいいと思えます。

委員（上野安是君） てにをはなど、その辺の訂正は今後ということで、内容は問題ないと思えます。

委員（坊野公治君） 私も問題ないと思えます。

委員長（荒木謙二君） 大まかな内容はこれで、あと校正等につきましてはまたこの委員会でも事務局とも相談しながら修正を図っていくというふうなことでよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（荒木謙二君） それでは、導入部分については大まかにこういった形で進めていくというふうなことにさせていただきます。

次に、アンケートの説明をお願いいたします。

大滝委員、よろしくをお願いいたします。

委員（大滝文則君） これは、今現在いらっしゃる地元の方を中心に考えたアンケートです。

新規就農者の場合は多賀委員のほうでつくられた分でいいんじゃないかと思ひまして、これは何を求めるかという後継者がいないと将来ますますその地域の農業は衰退し、また人口減少につながっていく中での取りまとめをできるんじゃないかなというようなことで、もう非常に簡単に取りまとめた、要は後継者がいるかないかを中心に、後継者がいない場合は今後農業、自分ところの土地をどうするかということを中心にこの程度でいいんじゃないかなと思ひつつっております。

それから、一応この前言いましたように、生産団体のほうの取りまとめを農協のほうへお願いできるかというたら農協のほうは担当者がよろしいということで聞いておりますし、浪漫館のほうへ行って浪漫館のほうも礎会とか等々の連携についてはお世話をするということで聞いておりますので、アンケートをとることについては何ら問題ないんじゃないかなという先方の今時点では確認はとっております。

委員（上野安是君） この前の話でこのアンケートは青野、美星で今従事されている方へ出されるアンケートですか。それとも、芳井、青野、野上、美星、その辺の今農業されている方へ出されるというようなイメージですか。

委員（大滝文則君） 先ほど言ったように、一応農協の営農担当者のほうへお願いして、2番で主たる経営類型ということで果樹や野菜、その他で、そういう中でブドウ農家が中心になると思うんですけども、部会等々で働きかけてもらうということはどこまでかということも、あるいはそういう部会等々のところへ働きかけてもらうと調査できるんじゃないかというのは思っておりますけども。

一応農協の営農担当者は大丈夫でしょうということで聞いておりますけども、そこから先、どれだけの回収率になるかというのは別として、一応各部会等々にはスムーズに返答をもらえるんじゃないかなということは思っておりますけども。

委員長（荒木謙二君） J A岡山西に何支店あるんか、井原市全体を網羅するというふうなことでよろしいんですか。J Aさんをお願いするというのは。

委員（大滝文則君） 井原の営農センターのほうへちょっと行ってきました、だから。第一に部分的、個々のでしょうけど、あそこがもとじゃから、あそこへ行って、あそこから流してもらう。それから、行けと言われればまた行きますけども、調整はできましようけども、もとが了解得られるとだめなんで、とりあえず営農センターへ行ってそういうお願いをしてきました。それはおおむね大丈夫でしょうということで返答はもらっております。

委員長（荒木謙二君） このアンケートは担い手があるかないかというふうなアンケートで、後継者がおられるかおられんかというふうなアンケートになるんですか。

委員（大滝文則君） 基本的にはそこに持っていくという。多分、農業の年齢構成が平均

年齢がだんだん上がっていく、後継者がいなくなる、産地が縮小していくということで、それがこのたびのもともとの課題である産地の育成というか、参入者に対する支援がもともとの目的の研究であるんで、それがひいてはここへ最後に出とる新規就農者の住宅建設にもつながってくるようなストーリーをある程度つくるために必要なんじゃないかと思うぐらいのことですが。

あとは多賀委員がつくられた新規就農者用の別枠のアンケートと別々にすりゃいいんじゃないかと思うんですけど。

委員長（荒木謙二君） これ、大滝委員、ざっくり対象は何人ぐらい思われますか。出すだけ、戻ってくる戻ってこんは別にして、ある程度何人程度というてやとったほうがええんか、何枚ぐらい要るんかというふうなことを聞いてますか。

委員（大滝文則君） アンケート調査の形からいうと、100人ぐらいはあったほうがいいんじゃないかなという。

委員長（荒木謙二君） そしたら、対象は100人程度というふうな。

委員（大滝文則君） ただ、回収率は。

委員長（荒木謙二君） 回答率、返答率がちょっとわからんですかね。一応配るのは100人程度に出したらいいんじゃないかというふうな思いでよろしいですね。

委員（大滝文則君） それはちょっとまだわからんが、美星のブドウ部会だけで60人ぐらいいらっしゃる。青野が何人か。じゃから、その数だけやっぱり出さなきゃいけないので、回収が僕は100人ぐらいありゃええかなと思うて、逆算して。

委員長（荒木謙二君） 対象についてはその営農アグリセンターに何枚ぐらい要るかというを確認しながらというふうな格好になろうかと思えます。

委員（大滝文則君） それで、一応この委員会でおおむね了解得たときには、アンケートを持ってきてからまたお願いするという話はしております。

委員長（荒木謙二君） それでは、このアンケートについてはよろしいですか。

〈異議なし〉

委員長（荒木謙二君） それでは、次に新規就農者へのアンケートについて、新規就農者の把握が可能かというふうなことを調査することとしておりました。

この点について、事務局より報告を願います。

主査（柳本兼志君） 資料として、新規就農者一覧というものをお配りしております。先の委員委員会におきまして新規就農者について、直近10年ぐらいでどれぐらいおられるか把

握できるかということで、農林課のほうに声をかけてみました。そうしましたところ、全てを網羅しておるかかわからないんですがという前提をいただいているんですが、普及センター等々に声がけもしながら、あと過去の資料なんかを拾いながらということをつくっていただきました。

表の見方でございますが、新規参入というほうが新しく農業を始められた方なんですが、その中で年齢が書いてありますが、60代以上の方につきましては井原市内でサラリーマン等をされておられた方が定年を迎えられて業として、もちろん家ではありますが、農業を始めようかというような方も含まれているようです。60代以上の方はそれにほぼ該当するのではないかなという気もしております。

Uターンのほうですが、これはもともと井原で生まれた方が何かの機に地元に戻ってこられて親の農業を継ぐ、または新たに始められた方も含まれるんですが、右側のUターンの方は多分全員住宅問題はないような方ということになるかと思います。そのような説明を受けております。

また、そのときに、今委員長のほうで少し説明していただきましたが、アンケートのための新規就農者に対する個人情報、アンケートを配れるよう、住所でありますとかお名前であるとかという情報提供につきましては、農林課のほうとしては一応可能ではないかということですが、こちらからの概要説明を聞いての判断ということで、何にでも使えるということではなくて、アンケートをとるということに関してのみ。それに関する情報提供であれば可能ではないかということで聞いてはおります。

また、農協のアグリセンターの川上さん、前に浪漫館での意見交換会の際に来ていただいた方にもちょっと聞いてみたんです。新規就農者の把握はできますかと聞いたら、私はブドウ等の担当なので、その方面の人についてはもちろん把握はしておるんだけど、農林課の資料にありますニンジンでありますとか酪農でありますとか有機野菜とか、そういった辺は把握されていないんですが、知り得る範囲だったら多分声をかけたらすぐ協力してくれるであろうから農協のほうに頼まれれば仲立ちしてあげてもいいよみたいなことも言われておりますが、その辺についてはお任せをしたが回収がいま一つになったりするような心配も少ししておりますが、個人情報の提供はどうですかということも少し、ただの話としてお伺いはしてみたんですが、それは大丈夫でしょうというようなことで回答をいただいております。今のところ確認しておりますのはこの程度です。

委員長（荒木謙二君） ただいまの事務局の説明について、何かご質疑ありますでしょうか。

委員（大滝文則君） これは農林課が出してくれた資料ですか。

主査（柳本兼志君）　　そうです。農林課です。

委員長（荒木謙二君）　　新規就農者一覧については、よろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（荒木謙二君）　　それでは、次に政策提言書の内容について改めて協議をしていただきます。

政策提言の導入分、これは先ほど大滝委員からの説明があつて、皆さんこれでいいのではないかというふうなことでございました。

提言理由、これを改めてお手元のほうに配付をさせていただいております。

多賀委員、説明をお願いいたします。

委員（多賀信祥君）　　前回の委員会で皆さんにご意見をいただいたところを修正しているのみになりますが、このような形で出させていただきます。

上の提言理由の表現の仕方、それから①、②、③の提言内容については前回の委員会でご指摘をいただいた部分の修正ということになります。

主査（柳本兼志君）　　この資料につきましては、前回の委員会で出ました意見をもとに提言内容のところを直させていただいております、もう今後は多賀委員のみではなくて皆さんで協議していただくことになろうかと思つてはおります。

委員長（荒木謙二君）　　前回の修正案というふうな形で提言内容のほうを修正しております。これにつきまして何か皆さんからご意見ありますでしょうか。

委員（大滝文則君）　　提言の①、②、③、いいように修正できると思つます。提言理由の終わりごろに新規就農における課題（住宅問題）をと書いておりますけども、この住宅問題に限定したような形にするのがどうかと、もう書かないか、住宅問題等と書くという形のほうが文章とすればいいのかなというふうな気もしますけども、流れとしてはおおむねええんじゃねえかと思つますけども。

委員（多賀信祥君）　　大滝委員からご指摘があつたこの部分についてですが、資料を並べているうち、用意している資料がこのたび新規就農者に向けてアンケートするわけですけど、その部分の全国的なアンケートでは4番目に住宅問題ということが出ていました。1番目から3番目については既に井原市、また近隣の他市町についても施策を講じているところであつて、この委員会で視察に出向いたところについてはもう一步住宅問題について踏み込んで施策を講じているということで、ここに括弧している部分、逆に強調されたような形になっておりますけど、この辺の文言についてはまたアンケートの結果にもよるのかなと思つ

ています。

委員長（荒木謙二君） アンケート等によって等を入れるか入れないかというふうなことは今後検討していくというふうなことのようです。

〈異議なし〉

委員長（荒木謙二君） それでは、そうさせていただきます。

政策提言の裏づけ資料については、以前多賀委員から出していただいております井原市の人口推移、それから農林水産省の平成29年新規就農者調査を添付しております。それから、井原市の新規就農者に対する支援事業、それから視察に行った久米南町の施策、平川地区の施策、豊後大野市の施策、それから実際の就農に際し苦労した点というアンケート結果で先ほど説明あった4番目に住宅の確保というのがあるというふうな資料。

以前、多賀委員のほうから配付をさせていただいた添付資料にこのたびのアンケート、新規就農者向け、あるいはこのたび大滝委員が提出されました後継者に対するアンケートをプラスして添付するというふうなことになるかと思うんですが、ほかに具体的な裏づけ資料というものでどういった資料が必要なのか、今の資料で十分なのかというふうなことをご協議していただければというふうに思います。

きょうちょっと添付資料を持っておられない方もおられると思うんですが、先ほど口頭で述べたとおりでございます。

アンケートには記述をしていただくところがあるんですが、そういったものが結構生の声というふうなことになるのかなというふうには思うわけなんですが、この提言をするのにこの資料で十分かどうか。今までの出た資料で十分かどうかということも検討をしてもらわないといけないというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

委員（大滝文則君） たびたび言いますが、もともとの発端は新規就農者に対する井原市独自の住宅建設が可能かどうかというところから始まっておると思うので、このアンケート等々でそれがあらわれれば一番の流れとしていいんじゃないかと思うんで、そのあたりをちょっと結果を見ながら、無理やり行くこともないでしょうけども、整合性が図れるものになるかならんかということはそのあたりの結果を見ながらでいいんじゃないかと思うんですけども。

委員長（荒木謙二君） 今、大滝委員のほうから、アンケートの結果を見ながら新たな資料等々は必要であればまたつけたらどうかというふうなご意見でしたが、ほかの委員の方がいかがでしょうか。

委員（坊野公治君） 多賀委員に出していただいている資料で国の状況、市の状況、また市の施策なども網羅していただいております。自分たちで足を運んで視察に行った内容も含まれております。ですから、これに先ほど言われたようにアンケートの結果がプラスされて、それによって、私はここにある資料で対応できると思うんですが、本来なら現状の把握を多分一番にするべきだとは思うんですけども、ある程度の資料、状況を調べてのアンケートということですので、そのアンケート結果を添えれば私は十分資料としてはそろっているのではないかなというふうには思います。

委員長（荒木謙二君） 坊野副委員長のほうから、このアンケートの結果を添付するぐらいで十分ではないかというふうなご意見でした。

先ほど大滝委員のほうからも、アンケートの結果を見ながら改めてというふうなご意見でしたが、坊野副委員長、それでもよろしいということですね。

委員（坊野公治君） はい。

委員長（荒木謙二君） ほかの委員の方、よろしいですか。

〈異議なし〉

委員長（荒木謙二君） それでは、ちょっともう一回、アンケートのほうに戻るわけなんですけど、字体もちょっと違うわけなんですけど、字体は同じようにしたほうがいいのかと思います。

アンケート調査の頭かけつに井原市議会建設水道委員会というふうなこと等も入れるべきなのかなというふうにも思います。それと、大滝委員のつくられたところに記述式な欄をつくったらどうかとは思いますが。

委員（大滝文則君） ごもつともで、7番目にその他では行政の要望とか、それこそその他の項でも、何らかの文章を入れて、感じたことをご記入くださいみたいなところがあってもいいかなと思っております。

委員長（荒木謙二君） 大滝委員のきょう提出した最後のほうに記述式のところ、要望とか困ったこと、当然フリーで書いていただければいいと思うんで、そういった場所をつくるというふうなことですが、それでよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（荒木謙二君） それと、井原市議会がやっとなだというふうなこと明らかにし

とったほうがいいのかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

委員（大滝文則君） それから、要請文書、かがみの文書。

委員長（荒木謙二君） かがみ、これ必要でありますので、かがみの部分に井原市議会建設水道委員会というふうなのを入れたらもうそれでいいのかなというふうに思いますので、ほかに何かありますでしょうか、アンケートについては。一遍締めたわけなんです。

局長（川田純士君） 当然建設水道委員会で調査しているんですけど、一応外に出すということになればもう井原市議会、あと並列で建設水道委員会みたいな格好にしとかんと、今までの経緯からいうて議会としてお願いするという形で。

委員長（荒木謙二君） わかりました。そういうことで、井原市議会というふうなことでさせていただきます。

この所管事務調査の提言書につきましては、あらかじめ導入文、提言理由、提言内容、裏づけ資料があって本来はこういった形にならないといけないのですが、ちょっと後づけというふうな形になりますが、アンケート調査を行うというふうなことも、また内容のほうも決定いたしました。

それで、スパン、例えば一月間ぐらいで回収するのか、もうちょっと早いうちに回収するのかというふうなことが必要ではないかと思えます。といいますのも、回収したら当然委員会を開かんといけんというふうなこともありますので、大滝委員、例えば先ほどJAさんとの協議をしたというふうなことでしたが、期間については何日間というふうな。

委員（大滝文則君） おおむねこれできたらまた来ますからというて言うとりますんで、だからさっき言ったことを入れて、大至急またそこへ協議に行ったらいいんじゃないかと。多分頼んだらそう時間かからん思います。

委員長（荒木謙二君） 2週間ぐらいでどうじゃろうか。

忙しくなるけど、2週間でも返ってくる人は返ってくると思うし、一月たっても返ってこんものは返ってこんというふうなことを思わんといけんのかなと。

委員（大滝文則君） 青野のほうも美星のほうもブドウは一段落しとるということで、時間的な、今一番楽な時期じゃというのはいいとります。だから、協力はそういう意味からすると十分可能なんかなと。それから、青野については、ブドウ農家及び礎会という後継者グループがあって、そういうところにも多分大丈夫でしょうというお話もいいとりますから、そういうのが各種団体へいろいろ声かけてやったら、今言われるように2週間、3週間、どっかで切るようにせんと、さっき言われたようにそれ過ぎても返ってこん可能性が高いんで、何日ぐらいまでお願いしますということでもいいんじゃないかなと思う。

委員長（荒木謙二君） 出しておおむね2週間ぐらいでというふうなお願いをして集計す

るというふうなことでよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（荒木謙二君）　それで、かがみのお願い文については皆さんにご了解をいただかんといけんと思うんですが、メールあるいはファクスで承認を得るといふふうなことでよろしいでしょうか。

できれば23日が閉会日ということなんで、そのときまでにできて、見ていただいて、何かあったらそのときに言っていただくというふうな形式にとらせていただこうかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（荒木謙二君）　それでしたら、ちょっと急いでさせていただこうかと思います。

ほかに全般的に何か皆様方からご意見等がありましたら申し述べていただければと思います。

〈なし〉

委員長（荒木謙二君）　こちら側からは特にございませんが、委員の皆様から何かありますでしょうか。

〈なし〉

委員長（荒木謙二君）　ないようでございますので、以上で建設水道委員会を閉会とさせていただきます。